

水陸両用バスの導入により地域内の回遊性向上を図る

事業概要資料

計画事業

現状及び課題

- 日光市栗山地域の主要産業は観光と公共事業となっているが、ともに厳しい状況となっている。
 - 観光：湯西川温泉宿泊者数がピーク時より約39%減少(約40万人<H6>→約24.5万人<H20>)
 - 公共事業：湯西川ダム以降の大規模事業なし
- 公共交通：湯西川温泉駅乗降者数が過去約15年で約30%減少(約15万人<H7>→約10.6万人<H20>)

活性化の目標・方向性

- 湯西川ダム完成後、ダム湖を活用した水陸両用バスの観光ルートを開拓し、公共交通としての実現を図ることにより、観光客の流入を促すと共に既存公共交通と連携し地域内の回遊性向上を図る。

実施する事業の内容

- 水陸両用バス実証運行(平成21年度:7月~11月、H22:4月~12月、H23:通年)
- 水陸両用バス冬季実証運行(平成22年1月~3月)80日間程度
 - ◆通年運行に向けた、結氷したダム湖における実証運行
- 川戸地区バス等待合環境整備施設詳細設計
 - ◆水陸両用バスの乗降並びに既存交通機関との乗り換えを可能とする施設の詳細設計
- 運行施設整備(バス停整備)
 - ◆道の駅湯西川等におけるバス停の整備
- 既存公共交通との企画キップ企画開発(企画サービス運営費)
 - ◆交通機関及び観光施設との連携キップの企画開発

